

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年5月10日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから5月10日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

まず、あしたの委員会定例会の議題は4つです。

議題の1つ目、令和3年度のRI（放射性同位元素）取扱事業所における事故・故障等の評価ということですが、RI取扱事業所で事故などが起こった場合は、規制委員会への報告というのが義務づけられていまして、昨年度、1年間で報告があった事故などについて、その概要とINES、国際原子力事象評価尺度の評価結果を報告するというものになります。

議題の2つ目が、RI法に基づく登録機関に対する立入検査の結果ということですが、これはRI法では、国が行う検査とか認証とか講習といった業務の一部を登録機関に行わせるという仕組みになっています。登録機関というのは、9つの種類の業務について延べ19機関が登録されていますけれども、それらの登録機関に対しては、定期的に規制庁が立入検査をするということになっていまして、これも昨年度の立入検査の結果を報告するというものになります。

議題の3つ目ですが、IAEA（国際原子力機関）のCSS会合の結果概要ということですが、

CSSというのは、安全基準委員会ですが、年に2回行われていまして、原子力施設の安全に関する基準とか指針とか、そういったものを策定している組織になります。その会合が4月20日から22日にかけて行われまして、その結果を報告するというものになります。

議題の4つ目が、INRAの結果概要ということで、国際原子力規制者会議ですが、これは各国の規制機関のトップが毎年集まって意見交換を行うという会議でありまして、今回は日本がホスト国だったので、5月2日から5日にかけて仙台で行われまして、委員長が出席をされました。その結果を報告するというものになります。

あと、2ページ目に行きまして、5月13日の（3）1Fの廃炉事故調査に関する調整会議ということですが、これは廃炉の作業と事故調査、これは干渉したりすることもある

りますので、情報共有をするということを目的に、規制庁とエネ庁と東電などでやっている会議というものになります。この議題2から5にありますとおり、廃炉作業と事故調査の関係で調整が必要になりそうなものについて情報共有を行うという会議であります。

次が、5月13日の（4）と（5）、この2つの審査会合は、いずれも震源を特定せず、標準応答スペクトルの関係の審査を行う会合ということになります。

（4）のほうで、京都大学と大洗のHTTRと常陽、（5）のほうで泊3号炉ということになっています。

次、3ページ目に行きまして、5月16日の（7）国際アドバイザーとの意見交換会合ということになります。

国際アドバイザーというのは、海外の規制機関のトップなどの有識者を委嘱しまして、年2回ぐらい開催していきまして、幅広い意見交換を行っているというものであります。現在のアドバイザーは、アメリカのNRCの元委員長のメザーブ氏ら4人ということで、そういう会議になります。

議題は2つありまして、議題1、昨年度の書面でのフォローアップとありますけれども、昨年はコロナで対面でできずに書面でやったのですが、そのフォローアップということで、セキュリティー事案の情報公開といったことが議題になっています。

議題の2つ目が、国際条約の規制への効果的な活用方策についてといった意見交換が行われます。

最後の3ポツの委員の現地視察ですけれども、山中委員が今週の木曜、金曜にかけて1Fを視察します。金曜日の夕方から下がり取材が可能になっています。

こちらからの説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。

ありがとうございました。